

自己評価結果

2017年度 流川こども園

1. 本園の教育目標

<p>みずみずしい感性・いきいきとした好奇心 -遊びこそ豊かな学び-</p> <ul style="list-style-type: none">・「神を敬い、人を愛する」キリスト教精神に基づく生活や、友だちとかがわる遊びの中で、その子らしさを発揮しながらともに育ち合い、ともに生きる喜びを育みます。・幼児の自発的な「遊びこそ」発達の基礎を培う「豊かな学び」であることを考慮して、保育のねらいを含む遊びや生活の環境を構成します。・「みずみずしい感性」を持って自然や文化、人々にかかわり、自他の存在への思いを深め、人格の根底を培います。・「生き生きとした好奇心」を持って環境に係り、自ら育つ力を発揮しながら、友だちと協同して遊びを創り出し、その学びの過程で主体的に生きる力を育みます。
--

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

<p>・幼保連携型認定こども園で働く保育教諭としての自覚を持ち、理念の実現と一人ひとりの専門性の向上や職務、職責に応じた役割行動の遂行を目指す。様々な研修に積極的に参加し、保育の質を高めるために多角的な視野を持てるように取り組む。</p>

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み状況
流川こども園の保育教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	幼保連携型認定こども園要領の内容を理解し、本園の理念と照らし合わせた上での保育、教育に取り組んでいる。保育の中で、具体的な場面についてのお互いの気づきや話し合いを行っている。
流川こども園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	こども園に求められる社会的なニーズは様々である。こうした状況を踏まえて、本園が応えていくべきニーズを本園の理念に照らしながら、すすめている。また、保育をとおして描く未来の子どもたちの姿を視野に入れ、計画を策定できるように努力している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	こども園要領、キリスト教保育、想像性、素話、エピソード記述、子育て支援、子ども理解、保育研究（環境）、保育実践など学園長や園長の話を聞く機会を持ったり、一人ずつが輪番でエピソード記録を發表し合い、話し合う時間を持っている。テーマを決めた取り組みについて、年間を通して行った研究を發表し合う機会を持つ。

保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。

保護者との個人懇談を実施し、はぐくみの会（保護者会）の意見箱について園だよりを通して答えてきた。苦情解決システムを整備し、常に意見をきけるように明文化している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

一人ひとりが自己評価し、本園の状況について話すことを通して、現在の取り組みを振り返り、より視野を拡げながら、改善して行こうとしている。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	不審者情報が市町から、随時提供されるようになっている。園では危機管理マニュアルの作成を行い、それに基づいて全員が行動しているが、より速やかに職員同士の連携がとれるように方法の工夫を考えていかなければいけない。
園の教育理念・教育目標の理解	理念の共通認識は得られてきたので、細部の実践にも繋がっていくように保育研修や実践のカンファレンスをとおして、保育の専門性をより高めていく。現在の子どもたちの姿だけではなく、将来的の姿も視野へ入れて保育にあたっていけるように、ESDの取り組みを行っている他園の実践へも関心を持っていけるように努力していきたい。

6. 学校関係者の評価

保育の現場にいと、様々な制限（例えば、時間的なこと、仕事の量など）がありながら、保育の質を高めていこうとするリーダー及び、個人の姿勢がみられる姿を高く評価する。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。